

私の留学体験記 in New York

留学決定まで

私は2006年5月から2007年5月までNYCへ留学をしていました。NYUへは9月から通い始めたのですが、それまでは他の語学学校へ行っていました。学生時代にもイギリスへ留学したことがあったので、今度は会話だけではなく、専門分野を勉強しようと思いました。以前は羽田空港でグランドスタッフとして働いていましたが、退職し何か他にやりたいことを見つけてこようと思ったのもNYCへ渡ったきっかけです。

留学先を見つけるにあたり、私の中で色々な条件がありました。まず、アメリカへ行くこと。イギリス英語に学生時代は触れてきたので、今度はアメリカ英語を身につけようと思いました。また、イギリスは物価があまりにも高すぎたこともあります。次に車を使わなくて済む場所、勉強に飽きてもすぐ傍に気晴らしができる場所があること、以上のことを留学会社に勤めていた友人に相談した結果、勧めてもらったのがニューヨークでした。

最初に行った語学学校にはインターンシップ制度があったのでそれに挑戦し、帰ってこようと思っていたのですが、大学へ行くことにも興味があり、ビジネスの知識を身につけられるところはないかとインターネットで探していたところ、グローバルエデュケーションのサイトに出会いました。

夏に一度帰国した際、グローバルエデュケーションを訪ね、福田さんにお会いしました。福田さんは、私の当時の状況やビジネスへの経験がないことも聞いてくださいました。色々ご相談した結果、マーケティングとPRの授業をとることになり、9月からNYUへ通うことになりました。

私はその後すぐにNYCへ戻らなければならなかったこともあり、その後の手続きはNYUの語学学校のディレクターとやり取りをすることになりました。ディレクターはDr. Jexという方で、とても真摯な方です。手続きの際に、私のつたない英語を一生懸命聞いてくださり、アドバイスをいただいた事は今でも忘れることができません。手続きだけでなく、授業が始まってからも色々相談に乗ってくださいました。

Fall Semester! - アメリカの大学って・・・

アメリカに来る前からアメリカの大学生は寝るまもなく勉強をするということを耳にはしていましたが・・・ですが、まさか私もその一員になるとは思いもしませんでした！！前の学校は(多くの語学学校がそうですが)会話が中心でした。しかしALIは前の学校と違って、「英語の文章を書くこと」を学ぶところでした。英語のエッセーを書いた経験が一度もなく、日本語で文章を書く事が大の苦手だった私は、ましてや英語でエッセーを書くのは一苦労です。

周囲のクラスメートに「なんでアメリカに来たの？」と聞いてみるとたいていの子は「大学院目指しているんだ！」や「大学院に行っているんだけど、英語力が足りないから授業受けているんだ。」と大学院を目指している人達ばかり。そこで、やっと私もここがどんな語学学校かを知りました。普通の語学学校との違いはおそらくモチベーションの違いなのではないかと思います。全体的に目標が高いので、周りの雰囲気からも「私もやらなくちゃ。」という気になります。「明日の宿題は自分の自己紹介をエッセーで書いてきてね。」ALI 初日からエッセーとの戦いの日々が始まりました。

先生は一クラス二人。月曜と水曜日が同じ先生で火曜日と木曜日が同じ先生です。私の先生は JAZZ の大好きな Vic と演技の大好きな Ellen でした。お二方ともにとても良い先生です。とにかく宿題の量は他のクラスの倍はあったように思います。多い時で週に三つのエッセーをこなさなければならないこともありました。ただ、書く作業だけでなくエッセーを通して文法を学び、文章の書き方を学びます。レベル 50 では時制、接続詞を中心に学びました。Ellen は毎週一度、一人ずつ面談をしながらエッセーについてアドバイスをくれました。アドバイスを一人一人にしていくことで、それぞれの個性ある文章力になっていくと思います。私はそういう個性を伸ばす Ellen の授業が大好きでした。

語学学校が始まって二週間後、SCPS の授業が始まりました。私は PR の授業とマーケティングの授業の両方を取っていました。PR もマーケティングも基本を勉強したのですが、PR は宿題が多く、これも毎週ライティング作業ばかりです。先生は厳しい方でしたが、こんな私でも文章の構成やアイデアの点では褒めていただいたこともありました。

授業内容は一時間は教科書を読み、先生の経験談も聞きながら要点を教えてください、残りの一時間半はグループに分かれ、分担された PR のプランを立てていきます。グループワークなのでもちろんアメリカ人のクラスメートとコミュニケーションを図っていかなければならないこと、アメリカの文化を理解していないにもかかわらず、アメリカ人向けに PR をしなければならなかったことが辛かったことです。マーケティングはひたすら授業を聞くという受身の授業ですが、クラスメートは普段企業に勤めている方ばかりなので、それぞれの経験談を元に授業を進めていきます。

語学学校の授業を朝から夕方まで受け、その後週に 2 回の SCPS の授業を受け朝から晩まで勉強づけでした。私は徹夜ができない方なので、週末も勉強しなかった日はほとんどなかったように思います。SCPS の授業は必ず宿題プラス予習をできるだけして行きました。その方が授業への理解度が違うからです。NYU に入ってから 3 ヶ月は、まさに「駆け抜けた！」といった感じで、あっという間に時が過ぎていきました。

友達関係

ここで私の周囲の友達について、お話したいと思います。留学以前は「日本人の友達なんて絶対に作らない！！」と心に硬く決意をして留学される方も多いでしょう。私もそのう

ちの一人でした。NYU に行く前は、いつも一緒にいる友達は台湾人と韓国人の子でした。週に 1 度日本人と話したくらいです。日本人を拒んだわけではなく、その二人と一緒にいるほうがとても楽しかったのです。ブライアンパークに行ったら皆でランチをしてペチャクチャしゃべり、楽しい毎日でした。今でも、二人とは連絡を取り合っています。二人のおかげで日本人にはない、色んな考え方や文化に接することができたように思います。



Spring Semester!!-少しの余裕と NYC

約 1 ヶ月の冬休みの間、私は愛しのイギリスで滞在していました。NYC へ戻った時に、非常に寒かったことを覚えています。NYC は寒いとは聞いていましたが、雪国育ち(長野県)の私も凍りつく寒さでした。ダウンコートは欠かせません。

そして、12月では女子寮で暮らしましたが、契約も切れてしまい、1月からはクラスメートの部屋が空いたので、初めてのシェア生活になりました。ルームメイトは韓国人のイザベル。彼女とは fall semester で一緒になり、私のことをお姉さんのように慕ってくれていました。そして、spring semester も一緒のクラスになり朝から晩までいつも一緒の生活でしたが、苦労はありませんでした。週末は分担して掃除をし、夕飯を一緒に作っていました。ご飯を食べながらよく、お互いの悩みや授業の内容について話したりもしました。彼女も大学院を目指していたので、それも私にはすごく刺激的でした。

spring semester は fall semester と違い、比較的ゆっくりとしたスケジュールでした。春休みも一週間ありまして、何より今度は自分に余裕があったように思います。余裕といっても、「何をすればいいのか予測がついた」程度のことで、宿題の量が減ったとかそういうことではありません。もちろん、ALI ではまたもや私はエッセーと格闘をしていました。レベル 50 では学ばなかった新しいエッセーの手法です。レベル 60 ではどちらかといえば、評論文の書き

方に近いと思います。「文章を読み要約をする、その上で筆者の論点を取り上げて賛否を論じる」形のエッセーでした。私はまたそこで壁にぶつかり、要約ができるようになるまでかなりの時間を費やしました。先生と一対一で何度も話し合い、自分ができないことへのストレスがかなりたまったこともありました。先生は Linda という先生で、生徒に対してとても我慢強い先生でした。分かるまでとことん話してくれる先生で、頑張った分だけ評価もしてくれます。

SCPS の授業は、marketing plan と brand marketing という授業をとりました。marketing plan は外国人の生徒が多く、グループワークも和気藹々とした感じです。「お互いに理解しあおう、アイデアを吸収しよう。」という空気が常に流れていました。宿題は授業で学んだ事を実際の自分の marketing plan にしてみるというような授業で、二週間に一度宿題がありました。先生はそれぞれの marketing plan を一つ一つ細かく添削してくださり、非常にきめ細かい指摘、質問を投げかけてくれました。

brand marketing はグループでそれぞれのグループが担当する商品についての短所を洗い出し、改善していく作業をしました。先生は授業中も生徒の質問に詳しく答えてくれますので、グループワークもやりやすいと思います。

NYC の余暇

私も少し余裕があったため、spring semester は様々なところに行きました。ミュージカル、美術館、日曜日のランチ。中でも一番の私のお勧めスポットは、夜の美術館です。グッゲンハイム、ブルックリンミュージアムは金曜日の夜、パーティ形式で美術館を開けています。DJ が音楽を流し、お酒を飲みながら有名な絵画を鑑賞できるのです。NYC でないとできない体験だと思います。グッゲンハイムは大人向け、ブルックリンミュージアムは老若男女、ご家族でも楽しむことができます。

私は食べることも好きなほうなのでよくウェストヴィレッジにも行きました。最近注目され始めている場所ですが、すべてのレストランがそれぞれの雰囲気を持ち、とてもおしゃれです。

また、セントラルパークはいつ行っても春夏秋冬を感じることができます。大学から少し離れていますが、それでも電車で 10 分程度です。NYC のいいところはこうやって息抜きがすぐにできることだと思います。



グッゲンハイム夜の美術館



セントラルパーク

保険でトラブル

私が、NYU で一番苦労したことといえば、保険です。

日本で保険に加入する手続きをとったのですが、NYU に行くには、その保険を NYU の保険に移し変える手続きが必要でした。NYU が指定する条件が当てはまっているかどうか、保険の詳細を照らし合わせながら確かめなければなりません。fall semester もやっとの思いで移し変えたのですが、spring semester はそれに輪をかけて大変でした。それには様々な問題が関わっていたのですが、(内容は省略させていただきます。)私はつたない英語を使いながらも保健センターとやり取りをし、1 週間ほど保健センターに通い続けました。それも、最後は Dr. Jex に協力してもらい、手続きが終了できたことを忘れもしません。一週間で交渉をする力が随分つきましたし、少し英語に自信が持てるようになりました。

こういうトラブルには実際まきこまれたくないと誰しもが思うかもしれませんが、しかし、

そんなトラブルからも留学生は学ぶことはとても多く、跡になって考えてみると、とても実になる経験だと思います。事前に回避できるのであればそれでいいのですが、トラブルに会ったときには、自分が主張すべきことはきちんと試してみる方がいいと思います。一生懸命伝えれば、相手も分かってくれるんだというひとつの自信につながるのではないのでしょうか。

留学を振り返って

NYUに行って良かったなと思えることは、自分が物事一つ一つについて深く考えることを覚えたことです。学生時代は、スポーツばかりしていた「単細胞」でした。勉強もしっかりとした覚えもありませんし、ベーシックな知識ばかり覚えて応用がまったくできませんでした。しかしながら、アメリカの大学はそうは行きません。考えるトレーニングの積み重ね、語学学校でも SCPS の授業も同じことを求められます。私には応用力を鍛える良い場所だったのではないかと思います。

また、NYC には「勉強の邪魔」になるものが沢山あります。先ほどもご紹介しましたが、ミュージカルや美術館など沢山見るものがあるからです。しかし、そこは分別をもって「遊ぶときは遊ぶ。勉強するときにはする！」と決めて生活をすれば、他の場所で留学している学生よりは得るものが大きいと思います。私自身も美術に特別興味を持っていただけではありませんが、また仕事に戻っても物事を違う角度から見ることもできるかもしれないのです。

私は転職の為に留学をしましたが、何か確固たる目標を持って留学をしなければ、意味がありません。NYC という街は「アメリカで成功しよう、輝こう」という人々が多い街で、英語を習得することだけでなく、多文化が集まる都市で、色々な刺激を受け自分の中で切磋琢磨したいという方には NYU を是非お勧めします。



SCPS コースのお友達と・・・